



「月の学校 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

屋上の上映会の準備もできて、あたりがすっかり暗くなったころ、2年生の子どもたちが、屋上に上がってきた。手には、光のアートを持っている。図工の時間に作った、子どもたち手作りの、キャンドルランプのような作品だ。暮れゆく夕空の下、約100個の光のアートが、屋上の周りを美しく照らしていた。



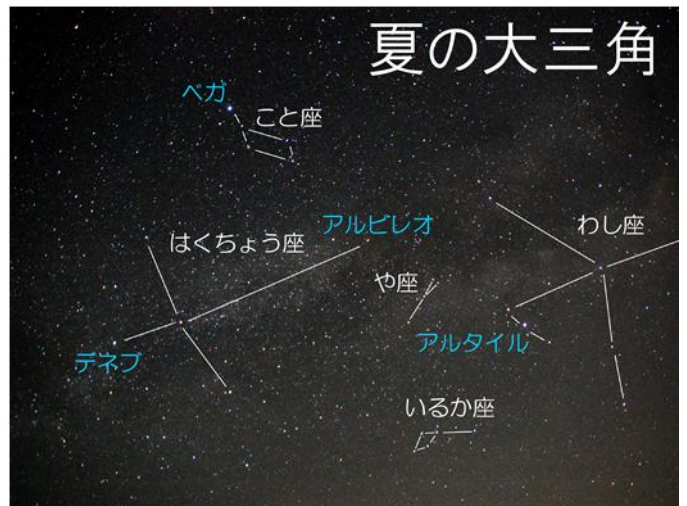
「夕空の光のアート」 池袋の夜景を背景に美しい



中にはロウソクではなく、色が変わるLEDランプが入っている。子どもたちのやさしさがあふれた、幻想的な作品に、しばし感動!



光のアートを鑑賞したあとは、いよいよスライドショー。月がビルのかげから昇って来るまでの、約40分間のイベントだ。子どもたちは、特に指示をしなくても、スクリーン(壁)が見やすい場所に、思い思いに仲良く座って鑑賞していた。完全に暗くなってくると、壁面の投影が、本物の空と一体化して、「夜空の一部を見ているような」雰囲気になってきた。



「スライドの1枚」 プラネタリウムのように、ポインターも使って説明した。(つづく)

【子どもの感想(絵日記)より】

・「おくじょうのスライドショーを見ました。月や星のことが、よくわかりました。スーパームーンが大きく見えるのが、どうしてか、わかりました。」
「おく上で見たしゃしんのショーが楽しかったです。星とオーロラが、本ものを見てるみたいでした。もう一かい、見たいです。」